

【新之助 食味・品質基準】

- 整粒歩合 70%以上(農産物検査等級 1 等相当)
- 水分含有率 14.0%以上、15.0%以下
- 玄米タンパク質含有率 6.3%以下(水分 15%換算)

【品種の特徴】

- 出穂期及び成熟期は「コシヒカリ」に比べ 6 日および 7 日程度遅い晩生種
- 極良食味で高温耐性が強い
- 草型は偏穂数型、耐倒伏性はやや強、穂発芽性は中程度
- いもち病ほ場抵抗性は、葉いもちにやや弱く、穂いもちに弱い

【主な作業と生育ステージ及び管理のポイント】

月日	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
	20			10 20			10 20			10 20			10 20			10 20		
主な作業と生育ステージ	播種			田植え			中干し			最高分げつ期	穂肥① 幼穂形成期	穂肥②	出穂期			通水最終日に十分かん水	落水は出穂期 25 日後以降	収穫成熟期

【生育のめやす(稚苗育苗、5月中旬移植)】

生育ステージ	葉数(葉)	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉色(SPAD)
最高分げつ期(7月5日頃)	10.0~11.0	43~47	580~640	35~38
幼穂形成期(7月20日頃)	11.5~12.5	62~68	550~600	33~36
1回目穂肥時(7月23日頃)	—	66~72	530~570	33~36
2回目穂肥時(8月1日頃)	—	—	—	33~36
出穂期(8月13日頃)	13.5~14.5	稈長 78	390~420	34~36

【収量構成要素及び品質の目標】

目標収量	540kg/10a
穂数	400本/m <sup>2</sup>
一穂粒数	70粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	28,000粒
精玄米粒数歩合※	82%
千粒重	23.5g
整粒歩合	70%以上
玄米タンパク質含有率	5.8%(上限 6.3%)

※玄米 1.9mm 以上粒数/全粒数 x100

基肥施用	田植え	中干し・溝切り	病害虫防除	穂肥施用と登熟期の水管理	収穫・乾燥・調製
<ul style="list-style-type: none"> <li>・完熟発酵ケイフン(イセ有機)等で「土づくり」を図る。</li> <li>・大豆後・基盤整備後・秋落ち田では作付けしない。</li> <li>・いもち病が発生しやすい圃場での栽培は避ける。</li> <li>・基肥は「越後の輝き有機 50 元肥」の場合は 30 kg/10a、全量基肥肥料の場合は、「越後の輝き有機 50 スーパー元肥ロング」47 kg/10a をめやすとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田植えは 5 月中旬をめやすに、経営規模や水利条件等を考慮したうえで適切に設定する。</li> <li>・栽植密度は 50 株/坪を基準とし過度な疎植は避ける。</li> <li>・1 株苗数は 3~4 本とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中干しは、遅くとも田植え後 1 か月をめやすに開始し、出穂 1 月前までに終了する。</li> <li>・溝切りは中干しの効果を高めるとともに、フェーン等の緊急時の迅速なかん水のために必ず実施する。</li> <li>・6 月下旬にケイ酸肥料を追肥</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉いもち防除は、育苗箱施用剤(GP オリゼリディア箱粒剤)による予防防除を必ず行う。</li> <li>・葉いもちなど病害虫が発生した場合は、すみやかに特裁(エコ・5-5)を外して、追加防除を行う。</li> <li>・穂いもちに弱いので、フジアン剤による予防防除を必ず行う。</li> <li>・カメムシ類の防除は、畦畔等の草刈りとスタークルによる薬剤防除を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 回目穂肥は出穂前 21~18 日(幼穂長が 5~10mm になる時期)に、けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥を 8kg/10a をめやすに施用する。</li> <li>・低地力ほ場は有機 100%肥料を追加する。</li> <li>・2 回目穂肥は出穂前 12~10 日に、「けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥」を 10kg/10a をめやすに施用する。</li> <li>・出穂 25 日後までは飽水管理とし、通水最終日には十分かん水する。</li> <li>・フェーン予想時は事前に深水湛水する。高温時は、水温上昇を抑えるこまめな水管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫適期は黄化割合が 85~90% になった頃であり、積算温度のめやすは 1050~1100℃である。</li> <li>・胴割れの発生を防止するため、乾燥は粉水分を確認し適正温度及び適正速度で行い、急激に乾燥させない。</li> <li>・選別網目は 1.9mm 以上を使用する。</li> <li>・成熟期頃が多雨の場合は、穂発芽に注意する。</li> </ul>

■使用肥料と施肥の目安

区分	肥料名	使用基準	10a 当り施用量		
			砂質土壌	中間	粘土質土壌
土づくり	みやぎ有機(完熟発酵ケイフン)	選択	75kg	75 kg	45kg
	牛ふん堆肥、豚ふん堆肥		0~500 kg		
育苗	稚苗苗代配合	-	30g/箱 x 18 箱*		
	田植前追肥	いずれか 1 資材	270g(18~23 箱)*	360g(18~23 箱)*	
基肥	味好 2 号、フジミレット 731、みらい有機 831	選択	30kg	0~20kg	-
	越後の輝き有機 50 元肥	いずれか 1 資材	30kg*		
	フレバーベスト 734		42kg*		
全量基肥肥料	越後の輝き有機 50 スーパー元肥ロング		47kg*		
ケイ酸質肥料追肥・根活性	スーパーシカ、けい酸加里プレミア 34、ウオターシカ、ファイブアップ	選択	15~40kg(ファイトアップ 500g 1袋 10 錠)*		
穂肥	味好 2 号、フジミレット 731	出穂 23 日前頃	0~20kg		
	フェザー MAX、みらい有機 831	出穂 3 日前迄	15kg	0~15 kg	0~20kg
	けい酸入りエコ・5-5 専用穂肥	出穂 21~18 日前頃 出穂 12~10 日前頃	穂肥診断より 10~12kg 原則 10~12kg	合計 20~25 kg*	

\*: 上限値。但し、基肥量が上限値未満の場合は、窒素成分の残量相当量を穂肥として施肥が可能です。詳細な施肥量はお近くの営農センターにご相談下さい。

■使用可能な農薬と使用回数 決められた農薬を予防重点で使用してください。

区分	農薬名	使用	使用回数の制限	
種子病害の予防剤	タフブロック	必須	—	
初期病害虫の予防剤	GP、オリゼリディア箱粒剤	必須	1回(JA 苗処理済)	
水田除草剤	一発処理剤	カクシールエナジー 1キログラム剤・フロアブルジャンボ	必須	いずれかの剤型1回
	ヒエ専用中期除草剤	グリーンチャー 1キログラム剤・EW・ジャンボ	選択	いずれかの剤型1回
	広葉雑草中期除草剤	グリーンチャーバス ME 液剤 バサグラン 粒剤・液剤・エア	選択	本剤使用の場合はグリーンチャー及びバサグラン単剤の使用不可 いずれかの剤型1回
いもち病予防剤	フジアン 粒剤・1キログラム剤・パック・乳剤・水和剤	必須	いずれかの剤型1回	
カメムシ類の防除	スタークル液剤 10	必須	いずれかの剤型1回	
	スタークル 粒剤・豆つぶ			無人へ防除区 個人防除区
稲こらじ病予防剤	ドイツホルド-A 又は Z ホルド-粉剤 DL・水和剤	選択	—	
紋枯病防除剤	バシダシン液剤 5・粉剤 DL・エア	選択	いずれかの剤型本田5回以内	
いもち病防除剤	カスミン液剤	選択	本田2回以内	

※農薬を使用する際は、必ず最新の使用登録内容を守ってください。(農薬確認令和8年3月)

■注意事項

- JA米「新之助」のブランド確立と食味・品質の確保を図るため、次に掲げる事項に確実に取り組んでください。
- 果が定める水稲晩生品種「新之助」生産対策実施要綱及び実施要領を遵守して下さい。
  - JAえちご中越ながおか新之助研究会が定める区分集荷・販売実施マニュアルに基づき、食味・品質の確保に取り組んでください。  
**＜食味・品質基準＞**
    - ① 整粒歩合 70%以上(農産物検査等級 1 等相当)
    - ② 水分含有率 14.0%以上、15.0%以下
    - ③ 玄米タンパク質含有率 6.3%以下(水分 15%換算)
  - 新之助の食味・品質の確保に向けて、次の事項に的確に取り組んで下さい。
    - ①栽培履歴の記帳 ②GAPの実践 ③毎年の種子更新
    - ④JA えちご中越ながおか新之助研究会区分集荷・販売実施マニュアルの遵守
  - 基準未済及び取組確認が取れない場合は、「新之助」としての流通はできません。